

足利風

ashikaga-fu

2025

夏号

Vol.94



画：伊村恵利佳

書：風喜人

足利市民活動センター

開館時間：平日 10:00～19:00

休館日：土・日・祝日・第3月曜日

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1

マルニ額縁生涯学習センター3F

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

*特集!

「不矢花(うせざるはな)“
～時分の花を超えて～」

*マチのちゃぶ台

「スプリングフィールド市との交流とアマガ」

*私のボランティアことはじめ

「旧足利市役所覚え書き」

*言葉のあやとり

「TGTG=Too Good To Go」

*INFORMATION

* 特集！ * 「不矢花（うせざるはな） “～時分の花を超えて～”

「風姿花伝」を遺した世阿弥は、再三にわたって“花”の大切さを説いた。“花”とは“芸術的魅力”を意味し、能役者は生涯“花の一枝”を持ち続けなければならぬと主張した。若いうちはだれでも、若さだけが持つ花がある。しかしそれは所詮“時分の花”。若さが失われれば消滅する。“不矢花”つまり真の芸術的魅力を身につけて初めて能役者は天下の名人となる。それにはひたすら稽古あるのみ、と世阿弥は説いた。花でも人生でも、その盛りはほんの一時。それゆえにこそ“不矢花”の心構えが大事なのだ。日本のダ・ヴィンチ～世阿弥元清は生涯にわたっての骨身を削るような稽古・鍛錬を説いた。

昔から芸の修行は“修（守）・破・離”という。能の大成者・世阿弥の言と言われている。同じようなことを、利休の弟子だった骨太の山上宗二が言っている～十五より三十まで万事を師にまかす也（なり）。三十より四十までは我が分別を出す。習（ならい）、骨法、普法度、数寄雑談は心次第なり。但し、十のもの五我を出すべし。四十より五十まで十年間は師と西を東と違ってする也。其の内、我流を出して上手の名をとる也。～太閤秀吉の酒宴での戯言・自慢話を切って捨てた山上宗二の命がけの気骨に、時代を超えて、快哉を贈るにやぶさかではない・・・。

(M生)

* マチのちゃぶ台 *

スプリングフィールド市との交流とアメリカ

2024年7月から8月にかけて2週間ほどニューヨークと姉妹都市のスプリングフィールド市に行ってきた。ニューヨークは17,8回目くらいの旅だろうか。今回の旅の目的は、高校時代の同級生が寿司屋さんを開いているのだが、お互いの近況を話したり、観光したり。スプリングフィールドへは丁度10回目の旅であるが、その9回までの現地訪問で親しくなった人たちや、1995年の栃木県での国際ジャズフェスティバルから始まって2018年のラングフェルダー市長（当時）に至るまで、足利を訪問されたスプリングフィールドの人たちにボランティアで通訳をしていたのだが、その中で気の合った人たち約20名をご機嫌伺いする旅なのである。ニューヨークでは円安と物価高が財布を直撃した。

ホテルの自販機でコーラを買ったら\$2.25(360円)。夜中にオープンしていたお店で、日本のセブン・イレブンで売っているようなアップルデニッシュ(100円)が\$2.99(約480円)なのである。これではアメリカの消費者にとっては物価高を何とかして欲しいというのも当然である。

帰国してから思うことは、円安ドル高とアメリカ国内の物価高は交流事業を行う上で非関税障壁である。関税男のトランプ次期大統領は関税と壁(メキシコとの)が大好きなようだが交流事業に支障とならないよう祈るばかりである。

奥中敏則

私のボランティアことはじめ

「旧足利市役所」覚え書き

羽山弘一

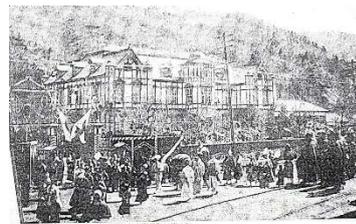
足利市本城3丁目 大正11年(1922)4月移築竣工 設計者：辰野金吾・葛西萬司事務所
施工者：不詳 木造 2階建中央塔屋3階 外壁：下見板貼り塗装仕上げ 小壁：漆喰
屋根：銅板葺 ドーマー付き

明治40年(1907)、栃木県足尾町(現：日光市足尾)に建築された古河鋳業足尾事務所売買の話が、大正10年(1921)3月両毛織物新聞社社長榎淵勇次郎氏より荻野萬太郎の元へもたらされた。足利町は市制施行にあたり市庁舎の建設を予定していたため、早速川島市長以下6名が足尾に実地視察に行った。「見ると実に立派な堂々たる建物であって、足尾鋳業所では幾年か前に大家に囁し十数万円を要して建築したものであるが、その後銅山に労働争議が頻発し、重役のための贅沢な建物であるとなして、屢々その周囲を廻ってデモをつづけた。__中略__値段を論ぜず買却の議が起っているとのことであつた(荻野萬太郎著「適齋回顧録」)。」

その後、金5万5千円で足利市が買い取るようになった。売買契約後建物の解体は迅速に行われ、順次足利に輸送した。大正10年(1921)7月市役所建設予定地、本城3丁目の地に着工したが、移築に際して設計図がなかったため、解体時の番付板での上棟であったと伝えられている。増築部分も含めて大正11年(1922)4月2日竣工、落成式が行われた。ハーフティンバーの美しい市役所は見学者が絶えることなく続いたという。

移築後50年、昭和48年(1973)建て替えのため取り壊された。

時過ぎて平成22年(2010)旧市役所の棟札が足尾にて見付かり設計が辰野金吾事務所と記されていた。日本銀行、東京駅など明治期日本を代表する建築家である。古河鋳業社長、古河市兵衛邸の設計はコンドルであり、辰野金吾は工部大学校教授であったコンドルの教えを受けた門下生である。また、東京の設計室「辰野金吾・葛西萬司事務所」の葛西氏は盛岡の名望家で親族が古河鋳業の取締役で有ること故、古河鋳業足尾事務所の設計を辰野金吾に依頼したものと考えられる。



言葉のあやとり

T G T G = Too Good To Go
(捨てるにはもったいない)

⇒デンマーク発のスタートアップは、廃棄予定の食品を低価格で提供し世界でサービス拡大中！

2016年に20代の起業家5人でスタート。

現在では、フードロス削減を通じて社会的影響力拡大中！

アメリカやカナダなど世界中で展開、アプリのダウンロード数は

4680万回(2021年10月現在)を超える。

* INFORMATION *

※コロナ感染対策により内容が変更・中止になる場合があります。

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。

★令和7年7月18日(金) PM2:00～4:00

* 本 : 絵本「うみべのいえの犬ホームー」
(作:エリシャ・クーパー 訳:北山洋子)
*案内人 : 中島 由貴子 さん

★令和7年8月22日(金) PM2:00～4:00

* 本 : 「古本食堂」(原田ひ香)
*案内人 : 石川 博右 さん

★令和7年9月21日(日) AM10:00～12:00

* 本 : 「一汁一菜でよいという提案」(土井善晴)
*案内人 : 鈴木 光尚 さん

■参加費: 無料

■会場/問い合わせ: 足利市民活動センター ☎44-7311

☆「企画展」(交流コーナー) (土・日・祝日・第3月曜日は休館日)

* 7月14日(月)～7月24日(木)	絵本庵&まんま展
* 7月28日(月)～8月7日(木)	ひょうたん置き物飾り展
* 8月19日(火)～8月28日(木)	近代化遺産とまちづくり展
* 9月1日(月)～9月11日(木)	ワールド・フード・イラスト展
* 9月17日(水)～9月25日(木)	SDGsの世界展
* 9月29日(月)～10月9日(木)	「なべのそこ」&仲間たち展

※展示時間・・・10:00～19:00 ただし最終日は15:00まで

☆「相談室」

* 相談室 =	7月9日(水) 14:00～16:00	「めだかの学校」
	8月6日(水) 14:00～16:00	「スマホの上手な使い方」
	9月21日(日) 14:00～16:00	「SDGsを考える」
* 講座 =	7月23日(水) 14:00～16:00	「近代化遺産とまちづくり」
	8月27日(水) 14:00～16:00	「多文化共生の地域づくり」
	9月24日(水) 14:00～16:00	「歴史と文化を活かした地域づくり」

編集後記

今は昔、高倉 健という俳優がいた。2014年11月逝去。任侠映画・朴訥な市井人にせよ健さんは「今だけ・金だけ・自分だけ」の当世で、不器用な時代遅れの男を演じた。義理人情に厚く、信義を貫き、辛さを耐え抜き、自分のためでなく他人のために命をかける。強くて優しい男を演じた“健さん”に日本人は憧れてきた。筋を通した昭和の男の背中を見続けてきた。学生時代、場末のオールナイトの映画館で、身動きもできない中、安っぽい酒臭い熱気を忘れない。生木を裂かれるように別かれた江利チエミが、アメリカ公演で泪ながらに唄った“健さんの「唐獅子牡丹」”の絶唱は、唄というものの底力を教えてくれた。没後十年を経ても尚、利他に裏打ちされた“俠気(おとこぎ)”の潔さは生き続けている。
(カサブランカ)